つつじが丘

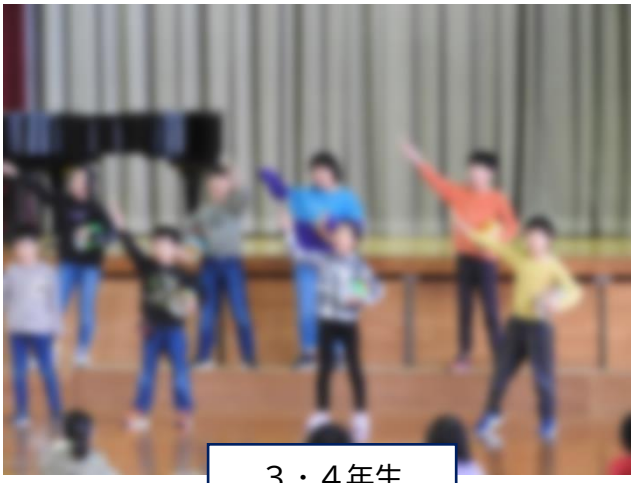
教育目標　ゆたかなまなび　たのしいなかま　げんきなからだ
重点目標　ともに高め合う　七谷っ子

加茂市立七谷小学校
学校だより
令和４年１１月１４日
No. ５０３号
http://www.ginzado.ne.jp/~7tnj-k/
e-mail k-7tnj@educet.plala.or.jp

音楽発表会スローガン
「自信をもって楽しもう みんなに歌声とどけよう」

６年生

１・２年生



３・４年生

５・６年生

10 月 29 日（土)、文化祭と小・中学校合同音楽発表会を行いました。今年も感染症対策として、ご家族のみの参観とさせていただきました。

音楽発表会では、校長のあいさつの中で、「音楽には、人の心を動かす力があります。自分たちの歌からどんなことを感じてほしいか、伝えることができるかを考えて練習してきたと思います。楽しさ、うれしさ、勇気、希望など、みなさんが伝えたいことが、しっかり伝わるように、今日は、練習してきたことを出し切り、楽しんでください。」という話をしました。子どもたちは、「こう歌いたい、こう奏でたい、こう伝えたい」という思いをしっかりと伝えることができたと思います。参観された方からは、「一人一人の声と姿がとてもかっこよかったです。鳥肌が立ちました。」「とてもよかったです。感動しました。」などの感想をいただきました。

文化祭では、絵も工作もすてきな作品に仕上がりました。子どもたち一人一人が楽しみながら制作したことが伝わるものでした。

作品鑑賞では、一人一人の作品をじっくり鑑賞し、よいところや気に入ったところを見つけていました。中学生の作品もとてもすてきで、中学生への憧れの気持ちが大きくなったと思います。中学生が小学生の作品を真剣に鑑賞する姿も、小学生にはよい手本となっていました。

文化祭・音楽発表会では、絵や工作を作り上げていく過程、みんなで歌を仕上げていく過程をとおして、子どもたちは、また１つ成長しました。

２学期の大きな行事は、12 月１日（木）のレインボー発表会（１～３年生）です。子どもたちは、今までの学びを分かりやすく伝えるために、どのように発表するかを考え、準備を進めています。子どもたちのさらなる成長を期待しています。

音楽発表会の子どもたちの感想（抜粋）

○１・２年生は、とても元気な声で歌っていたし、体をゆらしながら歌っているところからも元気が伝わってきました。
○３・４年生の「たいようのサンバ」が、手作りの楽器も使っていて、にぎやかで楽しくなりました。歌も楽しくて元気になれました。
○５・６年生の歌がきれいですごかったです。
○６年生の太鼓がそろっていてよかったです。
○中学生の歌は、伴奏がないのにハモっていたのですごいと思いました。ぼくも中学生になったらあれぐらい歌がうまくなりたいです。

～他学年のよさをたくさん見つけました～

文化祭・音楽発表会プロジェクトチームの活躍

５・６年生のプロジェクトチームの５名が大活躍してくれました。プロジェクトチームが行ったことは、「①音楽発表会スローガン募集、②七谷新聞～文化祭特集号～の発行（家庭数配付）、③『ようこそ文化祭』等の掲示物作成、④しおり作り」です。休み時間を使い、準備を進めてくれました。さすがプロジェクトチームに立候補した子どもたちです。手を抜くことなく、楽しみながら取り組んでいた姿が印象的でした。チャレンジウォークのプロジェクトチーム同様、今回のプロジェクトチームも、下級生によい姿を示してくれました。

プロジェクトチームのみなさん、お疲れさまでした！

子どもたちの活躍

○第 54 回加茂市美術展　ジュニア部門（絵画）
市長賞　２年　●●　●●　「おかしの町」

愛育会主催教育講演会「たっぷり愛して　しっかり任せる」
～成長をサポートする親子のコミュニケーション～

櫻井美奈子様（NPO 法人ハートフルコミュニケーション：認定ハートフルコーチ）を講師にお招きし、講演会を行いました。小・中学校の保護者、小・中学校の教員が参加しました。今までの子どもとの関わり方を振り返るとともに、今後どのように関わっていくかを考える有意義な時間となりました。

講演会の内容は、「子どもの心のコーチング（菅原裕子著）」からのお話だそうです。概要をお伝えします。

◆子どもの幸せな自立のためには、「愛すること」「責任を教えること」「人の役に立つ喜びを感じさせること」が大切。そのためには、親は子どものコーチになろう！
◆コーチになるためのポイントは、「子どもの力に気付くこと」と「サポートすること」。子どもの力に気付くためには、「他の子と比べない」「子供の過去と現在を比べる」「できることを見つける目で子どもを観察する」ことが大切。子どもをサポートするためには、気付いた子どもの力を承認することが大切。承認するときは、「事実（子どもの行動）＋親の気持ち」を伝える。例えば、「〇〇したんだね。お母さん、とっても助かるよ。」など。
◆できることは子どもに任せる。ただし、急に全てを任せることは、嫌なものを押し付けられたように感じるので、任せやすいことから任せてみよう。子どもに任せると、子どもは自分なりに考え行動に移す。うまくいった場合、自信となり、次のチャレンジしようというやる気につながる。うまくいかなかった場合は、うまくいかなかった理由などを考え、行動に移す。うまくいくためにどうしたらよいかを考えることにより、自分で自分の望む結果を手に入れることができることを学ぶ。
◆「なにやってんの。」ではなく、「そうされると、お母さんすごく困るし、悲しいんだよね。」などの言葉掛けをしよう。このようなかかわりの中で、自分の行動が人をどのような気持ちにさせるかを学んでいく。
◆「なんでできないの？」と言うと、子どもは「だって」と言い訳を考えてしまう。どうしたらできるようになるのか、解決に向かうように考えさせることが大切。

参加者のお子さんを対象に体操教室も行っていただきました。バク転や鉄棒、跳び箱の練習をしました。専門家の試技も見せていただき、子どもたちは、貴重な体験をさせていただきました。

～企画・運営してくださいました愛育会役員の皆様、ありがとうございました！～

いじめ防止の取組について振り返りました

６月に各学年で話し合って決めた取組について振り返り、生活朝会で発表しました。

～各学年の振り返り～

○１年生は、「ちくちく言葉を言わず、なないろ言葉を１日７回使おう」に取り組みました。はじめは、ちくちく言葉を少し言っていましたが、２学期はほぼありません。なないろ言葉は、少しずつ言えるよう回数が増えてきたので続けたいです。

○２年生は、いじめのない学校をつくるために「あったか言葉で教室をいっぱいにして、ひんやり言葉をなくす」ことを目標にしてきました。そして、帰りの会で毎日振り返りをしてきました。「大丈夫」や「すごいね」などのあったか言葉を使う人が増えました。ひんやり言葉はほとんど聞いていません。これからもこの取組を続けていきます。

○３年生は、「困っている人がいたら助ける」という取組をしました。水泳の学習のときには、下の学年の友達を手助けしたり、「大丈夫」と声を掛けたりしました。また、泣いている人がいたときには先生に知らせることができました。助けることができてよかったと思います。これからも、困っている人を見たら助けたいです。

○４年生の取組は２つあります。１つめは「困っている人がいたら気付くように声を掛ける」です。４年生４人で声を掛け合ってきました。今後は、４年生だけでなく、他の学年の人にも声を掛けます。２つめは「今日のきらりさんと日直のいいところを発表する」です。みんなのよかったところを見つけて、それに対しての気持ちを言うことができました。きらりさんが増えました。これからもきらりさんを増やしていきます。

○５年生の取組は、「他学年とできるだけ遊ぶ」でした。理由は、他学年のいじめを見つけたり防いだりできるからです。できた人もできなかった人もいました。できた人は、１，２年生を誘って遊んだりしたなどの回答をしていました。できなかった人は、仕事などで遊べなかったなどの回答をしていました。できる人を増やすためにこれからも続けていきます。

○６年生は、「自分も相手も周りも嫌な気持ちにならないように考えて行動する」ということに取り組みました。相手の気持ちを考えて、相手も自分も嫌な気持ちにならないように行動しました。でも、遊ぶときはあまり意識しませんでした。これからは、遊ぶときにも、相手も自分も嫌な気持ちにならないように思いやりを意識して行動したいです。

今後も、「いじめをしない・見逃さない・ゆるさない」気持ちの醸成に努めてまいります。

歯科指導を行いました

低学年と中学年は、歯科衛生士の方を講師にお招きし、正しい歯の磨き方を指導していただきました。高学年は、青柳歯科医師様から歯周病予防について指導していただきました。歯科衛生士さんからは、４年生までは仕上げ磨きをしてもらった方がよいというお話がありました。学校では、学んだことを給食後の歯磨きに生かしていきます。ご家庭でも、仕上げ磨きをしたり、歯磨きの様子を見たりするなどしていただきたいと思います。

ありがとうございました

小柳建設株式会社様から、加茂市の子どもたちのために役立ててほしいと、図書カードのご寄付をいただきました。平成 22 年から、毎年市内小・中学校、幼稚園・保育園・認定こども園にご寄付を続けてくださっています。頂戴いたしました図書カードは、学校図書の充実に活用させていただきます。子どもたちから本を選んでもらおうと考えています。